



現状と課題

- 保護者の家庭教育が十分に望めず、学習に向かう姿勢の差が大きい。

【令和5年度埼玉県学力・学習状況調査結果より】

	R5平均正答率(県平均)	下位3レベルの割合	R4平均正答率(県平均)
4年国語	54.9%(63.6%)	25.53%	
4年算数	54.6%(63.9%)	34.04%	
5年国語	62.7%(62.7%)	14.58%	56.8%(62.1%)
5年算数	61.4%(63.0%)	29.17%	63.2%(63.0%)

- 4年生は、学習方略全般が課題。作業方略が特に低い。自己効力感も低い。
- 5年生は、プランニング方略、作業方略が課題である。

現状と課題をもとにした仮説

- 算数・国語において、家庭学習の在り方も含めて個別に指導することにより、児童が学習に臨む準備を十分に整え、自分にあった学習方法を見つけることができるであろう。
- 算数・国語において、個の学習状況に応じた指導を行うことで、児童が「わかる喜び」と「わからないことをすぐに聞ける安心感」をもち、基礎的な学力を身に付けることができるであろう。
- 学力・学習状況調査結果分析と今後の指導改善を協議し、個々の学習課題に応じた支援を講じることで、児童の学習に向かう意欲を高めることができるだろう。

事業実施報告

【通年】 少人数指導・TT
チャレンジタイム
小作文
家庭学習マスターカード

- 4月13日 事業計画の協議
- 5月23～25日 研究授業①
- 7月10日 研究授業②
- 10月12日 調査結果の分析考察
- 11月 6日 スクラム訪問

仮説をもとにした取組内容

取組① TT及び少人数指導による個別指導の充実

4年生 国語6時間、算数5時間
5年生 国語2時間、算数5時間

- 該当児童を中心に、「コバトンのびのびシート」を活用しながら、T1とT2が情報共有し、児童の課題に合わせた指導・支援の在り方を探り、実践する。
- T1とT2が評価規準を共有し、それを明らかにした上で助言者、評価者等役割分担しながら指導することで、児童が自分のペースで課題を進められるようにする。



取組② 児童が課題意識や見通しをもつための授業改善

- 導入から、めあての提示までの流れを工夫し、児童が必要感をもって学習に臨めるようにする。
- 学習過程を示したカードを活用すると共に、評価規準を明示し、見通しをもって学習を進められるようにする。
- 児童一人一人が考えをもつ時間を十分に確保するとともに調べ方を選択できるようにして、児童が学習方法を自ら考えられるよう促す。
例：タブレットや辞書を常に身近に置く等

取組③ チャレンジタイム(業前10分間の学習)の充実

- 国語・算数のドリルや問題集やオンラインドリル等を繰り返し学習し、計画的に実施する。
- スクラム加配教員が支援に入り、つまづきを解消する。

取組④ 家庭学習マスターカードの充実

- 児童一人一人が自分で学習内容や学習方法を選択できるカードを配布し取組を促す。
- 懇談会等を活用し、家庭学習を奨励すると共に、マスターカードについて周知する。

学年	科目	学習時間	指導者	実施日	実施場所	実施内容	実施状況
4年	国語	6時間	担任	11/10	教室	コバトンのびのびシート活用	予定通り
4年	算数	5時間	担任	11/10	教室	コバトンのびのびシート活用	予定通り
5年	国語	2時間	担任	11/10	教室	コバトンのびのびシート活用	予定通り
5年	算数	5時間	担任	11/10	教室	コバトンのびのびシート活用	予定通り

取組⑤ 埼玉県学力・学習状況調査の結果分析から考察したその他の取組

- 自己効力感が低い。⇒特別活動の充実、家庭・地域・関係諸機関との連携。 例：体験学習の充実、警察と連携した児童会活動。
- 無回答率が多い。⇒小作文、言語活動の充実。
例：朝会のお話をまとめ自分の考えを書く活動、互いの思いを読み合う・聞き合う活動。
- 文法に関する問題に弱い。⇒文章に触れる活動の充実。
例：朝読書、読み聞かせ、図書室の工夫、本の福袋、読書の木等





現時点での成果

成果① TT及び少人数指導による個別指導の成果

- 苦手な学習内容も途中で諦めずに最後までやり遂げる児童が増えた。(特に「対象児童」)
- 埼玉県学力・学習状況調査の結果より「学力の伸び」の平均が県・市町村の平均を令和5年度は大きく上回り、令和6年度はほぼ同等の伸びであった。

	令和4～5年度の伸び				令和5～6年度の伸び			
	5年国	5年算	6年国	6年算	5年国	5年算	6年国	6年算
県	3	2	2	1	1	1	0	1
市町村	2	1	2	1	2	1	1	2
本校	5	3	3	2	2	1	0	-1

成果② 児童が課題意識や見通しをもつための授業改善の成果

- 自ら学びの方法を考えたり、友達と相談しながら解決策を考えようとしたりする姿が多く見られるようになった。



成果③ チャレンジタイム・マスターカードの充実の成果

- 学習に集中して取り組む姿勢が向上した。
- タブレットや学習プリント等を活用して主体的に学ぶ姿が多く見られるようになった。



成果④ 埼玉県学力・学習状況調査の結果分析から考察したその他の取組

- 聞き手を意識し、自分の考えや思いを堂々と表現しようとする習慣がついてきた。
- 短時間で自分の考えを書き表すことができるようになった。

6年 200字短 作文完了速度 平均(参考)	1回目	2回目
		9.83分



課題及び次年度に向けて

- 2年間のスクラム事業を通して、児童が「わかる喜び」と「わからないことをすぐに聞ける安心感」を重視し、TT等を取り入れて児童一人一人の学習課題や学習状況に応じた丁寧な指導・支援を実現してきた。児童が最後まで諦めずに学習に取り組もうとする姿や、埼玉県学力・学習状況調査の結果から「学力の伸び」の平均が県や市町村より高かったことから、本取組の成果が大きかったと考える。令和6年度の調査では、令和5年度ほどの伸びは見られなかったため、再度指導方法の検討を行う必要がある。
- 事業が終了したことから、今後はこの2年間で御指導いただきながら研究してきたことを精査し、優先順位を考えて、取組の更新をしていく。



警察と連携した児童会活動

